

3 評価の観点と方法

評価の観点 と趣旨	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に 取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価の方法	観察 （授業の様子、積極性など） 定期テスト、歌のテスト、 アルトリコーダーのテスト ワークシート 発問に対する回答	観察 （授業の様子、話し合い・ペア・ グループ活動の様子） 定期テスト ワークシート 発問に対する回答	観察 （授業の様子・積極性・ 態度） ワークシート 定期テスト

4 授業の受け方・ポイント

- 音楽は教材ごとにそれぞれの課題があります。曲の構造や歌詞の内容、作曲者や歴史的背景・音楽文化など様々な視点から曲の理解を深めていきます。「音がはねているみたい、軽やかな感じ」など音楽から感じ取った雰囲気を手がかりに学習に取り組んでいきます。
- 自分の思いや意図を表現するための手段として、音符や休符、音楽記号などの理解も必要になってきます。
- 歌唱やアルトリコーダーでは、まず、「やってみよう！」という気持ちが大切です。繰り返し練習に取り組む、「どしたらよくなるか」「なにが必要か」等、自分やパートの課題を見つけて改善していきましょう。
- 合唱は一人ではできません。クラスの仲間と教え合い、助け合って学習を進めていくことが大切です。声の音色や響き・発音に耳を傾け、挑戦したり試したりしながら自分の力を伸ばしていきましょう。

5. 家庭学習

- ☆音符や休符・音楽記号を覚えよう。
- ☆この国の音楽なのか、誰が作った音楽なのか、授業の内容やワークシートをもとに自分なりにまとめてみよう。

音楽科担当	高橋 幸子
-------	-------